特集　子育てに木育を広げよう

新生児を祝福　地元木材のてんぐつみき

市はおととし12月、「ウッドスタート」を宣言し、暮らしの中に木を取り入れて子育てに生かす活動を進めています。木と触れ合うことで自然の大切さを考える心を育む「木育」の普及を目指して、新生児を対象に、市内の作り手による地元産木材を使った木のおもちゃの贈呈をスタートしました。地元木材の消費を増やすことで、市内の森林を育て守ることにもつなげています。

ウッドスタートは東京おもちゃ美術館（東京都新宿区）を運営するＮＰＯ法人芸術と遊び創造協会が推進している活動で、全国で約50の自治体が宣言しています。県内では県やみなかみ町、川場村などが宣言済み。市は年間約２００人誕生する新生児への誕生祝い品の贈呈のほか、木育を学び実践したい人に向けた木育インストラクター養成講座を開催しています。林業者や木材加工業者、保育・子育て支援関係者、行政などが木育について話し合う木育円卓会議にも取り組んでいます。

おもちゃは沼田製材業協同組合が一つ一つ手作りした「沼田のてんぐつみき」。迦葉山弥勒寺（かしょうざんみろくじ）に伝わるてんぐ伝説からてんぐの顔を題材にし、顔に杉、烏帽子（えぼし）に桑、それぞれ沼田産の木を使っています。

迦葉山弥勒寺では天狗のお借り面を神棚や仏壇に祭ると開運のご利益があるとされており、毎年お参りの際に前の年に借りたお面を返して、新しいものを持ち帰ります。年々お面が大きくなっていく習わしからヒントを得て、てんぐつみきも生まれてくる赤ちゃんの幸せを願い、サイズが異なる５種類のつみきをデザインしました。接着剤にもこだわり、有害な物質は一切使わず舐めても安全です。おもちゃを受け取った家族は「木の香りやぬくもりが良い」「割れることがなくて安心」と好評です。